

進化人類学分科会 後期中新世アフリカの霊長類進化に関する研究動向

11月5日 D会場 13:00-14:40

オーガナイザー：中務 真人（京都大・理）

ゴリラ、チンパンジー、ヒト系統の分岐は、後期中新世におこった。東アフリカでは、約2000万年前から1200万年前まで、ある程度連続的には乳類化石産地が存在するが、後期中新世の化石産地が乏しく、サンプルピテクスの発見を除けば、この時代のアフリカ霊長類進化をめぐる研究は停滞していた。しかし、近年、エチオピアのチョローラ、ケニアのナカリでの調査により、大型類人猿を含む霊長類化石資料が次第に充実し、1000万～800万年前にかけての霊長類進化動向がようやく垣間見られるようになってきた。このシンポジウムでは、こうした調査から得られた最近の知見を中心に話題提供し、今後の展望を考えてみたい。

- S7-1 東アフリカ後期中新世化石産地ナカリから新たに発見された大型類人猿化石／國松 豊（龍谷大・経営）
- S7-2 後期中新世における狭鼻類系統の興亡について／中務 真人（京都大・理）
- S7-3 チョローラ層の年代層序と霊長類を含む動物相／諏訪 元（東京大・総合博）
- S7-4 東アフリカにおける後期中新世哺乳類動物相の変遷とその古環境／仲谷 英夫（鹿児島大・理）